

THCグループに 3ファンドが出資

徳島大正銀が紹介

徳島派遣センター(徳島市)などの持ち株会社「THC GROUP」(同)は30日、三菱UFJ銀行などが設立した「投資事業有限責任組合夢承継3号ファンド」をはじめとする3ファンドから出資を受けたと発表した。ファンドの支援を受けて株式上場を目指す。THCグループは人材派遣やコールセンター事業、求人情報誌発行などの5社を傘下に持つ。近年はコー

ルセンター事業が右肩上がりに伸びており、2021年9月期の連結売上高は約31億円に上る。グループ全体で従業員621人が働くものの、後継者がおらず事業承継が課題だった。上場によって、資金調達力や信用力の向上を目指し、人材採用を一層進める。出資したのは同ファンドのほか、徳島大正、香川両銀行などが設立した「地域」とトモニ1号投資事業有限

責任組合」、伊予銀行などの「いよベンチャーファンド6号投資事業有限責任組合」。出資額は非公表。グループの意向を受け、徳島大正銀行が上場ノウハウを持つ夢承継3号ファンドの運営会社を紹介した。グループの中田善和社長は「徳島発祥の会社が上場することで地元雇用が生まれる。企業成長と共に地方創生も実現し、成功事例をつくりたい」と意気込んでいる。(中野由梨)

JR四国 10月普通収入1.1%増 2カ月ぶり前年上回る

JR四国が30日発表した10月の鉄道営業概況は、定期券を除く普通収入が前年同月比1.1%増の14億2600万円、2カ月ぶりに前年を上回った。ただ、2019年比では47.8%減となった。新型コロナウイルス感染拡大後では最も落ち込みが少なかったものの、依然として厳しい経営環境が続いている。

普通収入の内訳は、四国内移動が9.7%減の4億8千万円、本州との出入りが7.7%増の9億4600万円。このうち県内の販売は、四国内移動が3.7%減の7700万円、本州との出入りは20.0%増の

5400万円だった。定期収入は、24.9%増の4億8200万円と、3カ月ぶりに前年を上回った。感染拡大による臨時休校などで購入時期がずれたため。

JR四国バスが発表した10月の高速バス乗車人数(共同運行会社分含む)は6.0%増の8万9067人。19年比では58.4%減となった。徳島―阪神間は19年比54.6%減の2万7994人だった。(山口和也)

短信

■阿波銀が年末休日相談窓口設置 阿波銀行は11日から26日までの土日曜に、徳島市東新町1の本店営業部に休日相談窓口を設ける。新型コロナウイルス感染拡大で影響を受けたり、年末の資金繰りに悩んだりしている事業者らの新規融資や条件変更といった相談に応じる。個人ローンの相談も受け付ける。各日も午前10時～午後5時。来店希望日の2日前まで来店予約ができる。問い合わせは、電話088(623)2330。